

Chernobyl通信

発行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局

連絡先 北九州市八幡東区春の町1-3-7 日開荘2号

Tel·Fax 093(681)1780

口座番号 01770-1-65328

加入者名 チェルノブイリ支援運動・九州

1998年5月8日

No.

40



Chernobyl Newsletter No. 40 to be delivered

New green season has come. I hope you will have a good time. This year, through Green Co-op, we will become members and start from scratch. Chernobyl Newsletter is published four times a year. Please take care of it.

This time, the second medical team participated in the Deep River representative's Chernobyl accident 12th anniversary report, and the second medical team was sent to the Sanatoriumium support, etc., which was very popular.

【This time's content】

- Chernobyl accident 12th anniversary
- 3rd medical team deployment
- Sanatoriumium support
 - Sanatoriumium introduction
 - Director's letter
- 8th general assembly report
 - Mr. Morita's lecture
 - Financial report
- Chernobyl support movement · Kyushu 10th anniversary plan
- New member welcome
- Book proposal
- Office

... becomes.



Chernobyl accident 12th anniversary

In April 26, 1986, at the Chernobyl Nuclear Power Plant in Ukraine, the world's worst nuclear accident occurred. About 20% of the released radiation was released. In the Soviet Union, about 480,000 children were exposed to radiation, and about 1.8 million people were exposed to radiation. Since the accident, thyroid cancer has increased, and many other thyroid diseases have increased. In addition, about 600,000 workers have been involved in accident cleanup, and about 200,000 people have health problems. There are also reports of leukemia and other diseases. It is expected that the number of cases will increase in the future.

Chronic iodine deficiency increases damage

The main radioactive iodine is iodine-131. Natural iodine is absorbed through sea vegetables, etc., and secreted by the thyroid gland. Therefore, the thyroid gland is damaged by radioactive iodine.

状腺に吸収される。人体は原発事故により放出された放射性ヨウ素と天然のヨウ素を識別できないまま、呼吸や飲食物を通して放射性ヨウ素を体内に取り込んでしまい、体積の小さい甲状腺（大人で約20g）が集中的な被爆を受けることになる。ヨウ素131の半減期は8日と比較的短く、その被爆が問題となるのは事故直後の100日間程度なのだが、ペラ

ルーシは内陸部で、もともと甲状腺がヨウ素に対して飢餓状態、つまりいつも足りないという状態にあった。そういう環境の中に放射性ヨウ素が入ってきたため、甲状腺は急激に放射性ヨウ素を濃縮してしまい、このことが将来にわたる大きな問題を引き起こしたと言える。

…図①

図① ペラルーシのチェルノブイリ事故前と後の
甲状腺ガン

年	患者	大人	子ども
75 - 85	1354	1347	7
86 - 96	4514	4006	508
1997	297	253	44
合計	6165	5606	559

事故後、11年間の甲状腺ガンの発症数は大人で4006名、事故前の約3倍になる。14才以下の子どもの場合は508名で、事故前の約72・5倍となっている。事故以前、子どもがこの病気になるのは非常に珍しく、75年から85年まで小児甲状腺ガンはわずかに7名であった。大人の場合は1347名であったが、ガンの発症に地域的な特徴は見られなかった。しかし、事故後的小児甲状腺ガンの発症は、住んでいる地域と密接な関係が見られる。大多数がペラルーシ

の南部、ゴメリ州、ブレスト州に偏っているのだ。

…図②

また、小児甲状腺ガンということで言えば、95年の91名をピークに、96年が84名、97年の8カ月間で44名と減ってきてている。これは小児の定義が14才までだからで、甲状腺ガン自体が減ってきてているわけではなく、いまから青年になっていく人たちの甲状腺ガンは今後も増えていくものと思われる。

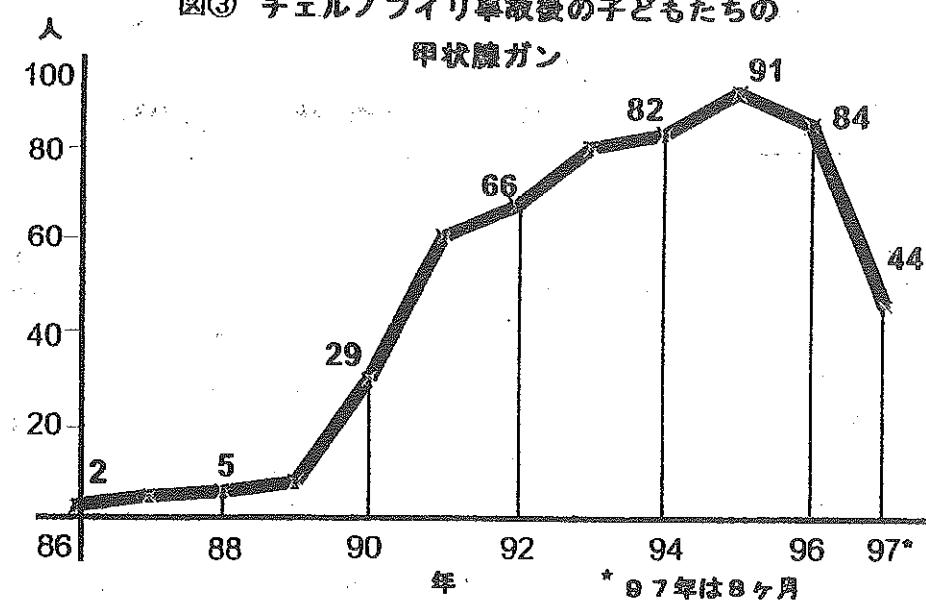
…図③

図② チェルノブイリ事故後の甲状腺ガン

州	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97*	患者数
プレスト	0	0	1	1	7	5	17	24	21	21	25	5	127
ヴィテブスク	0	0	0	0	1	3	2	0	1	0	0	1	8
ゴメリ	1	2	1	3	14	43	34	36	44	48	42	27	295
グラドノ	1	1	1	2	0	2	4	3	5	5	5	2	31
ミンスク	0	1	1	1	1	1	4	4	6	1	5	5	30
モギリヨフ	0	0	0	0	2	3	1	7	4	6	3	3	29
ミンスク市	0	0	1	0	4	2	4	5	1	10	4	1	32
ペラルーシ全域	2	4	5	7	29	59	66	79	82	91	84	44	552

図③ チェルノブイリ事故後の子どもたちの

甲状腺ガン



放射能と甲状腺ガンに苦しむ子どもたちに、ベラルーシ共和国の貧困な医療がさらに追い打ちをかけている現状がある。ベラルーシ共和国ミンスク市にある国立甲状腺ガンセンターで、ボランティアで医療活動を続けている菅谷昭医師は現地の医療について次のように語っている。「私が非常に気になることは、子どもたちの再発の率が高いことです。これまでこの病院で500名を越える子どもたちの甲状腺ガンの手術が行われていますが、なかには1年間に3回も手術を受けている子どもがいました。こちらでは、甲状腺ガンの病巣を取るときに、本来なら取るべき周辺のリンパ節を取っています。リンパ節にはガンが残っているから間もなく再発します。これはもうガンの再発ではなく、取り残しです」と。

また、医療設備に関して、「ピンセットや紺創膏といった基本的な器具が不足しています。日本から支援する際には、こうした本当に必要なものを少しづつで

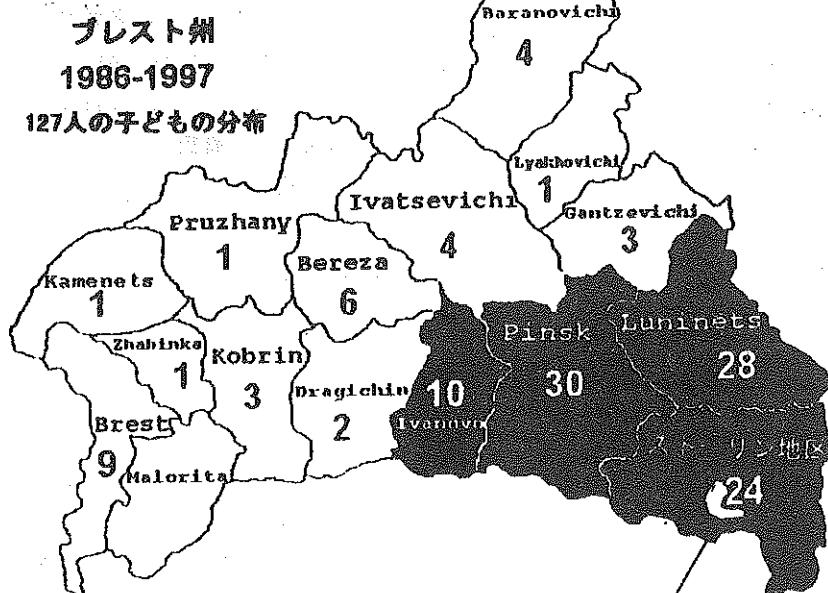
もいいから長期的に補給して欲しい」と述べ、現場の状況に適した支援を求めている。

私たち支援運動・九州の活動も今年で9年目を迎える。昨年7月には、ベラルーシ赤十字に移動検診車「雪だるま号」を贈呈し、ブレスト州ストーリン地区での移動検診活動に着手するなど新たな支援をスタートさせた。ストーリン地区はブレスト州の中でも小児甲状腺ガンの多発している地域であり、この地域での早期診断治療システムの確立は急務といえる。

7月には3回目の移動検診チームをベラルーシに派遣する。今回は、ストーリン地区南部にあるアルマーニでの学校検診を計画している。アルマーニ地域はストーリンのなかでも汚染の強い地区であるが、これまで十分な検診は行われておらず、この地域での学校検診の意義は大きい。

(深江)

図④



- 4 -
アルマーニ

「移動検診車導入」による早期診断・検診システム 第3回検診団を派遣します

「移動検診車導入」による早期診断・検診システムの第3回検診団の日程とメンバーが決まりました。今回からは、日本人医師と現地医師によるセミナーを開き、現地医師の医学的・技術的な向上をはかります。

期間

7月2日（木）～11日（土）

メンバー

- ・原田 種一（甲状腺専門医師・川崎医療短大教授）
- ・片桐 誠（甲状腺専門医師・永寿総合病院外科部長）
- ・角 みどり（臨床検査技師）
- ・山田 英雄（ロシア語医療通訳、チエルノブイリ支援運動・九州 顧問）
- ・山口 英文（ロシア語通訳、チエルノブイリ支援運動・九州 運営委員）
- ・矢野 宏和（チエルノブイリ支援運動・九州 運営委員）

内容

- ・セミナー
- ・学校検診

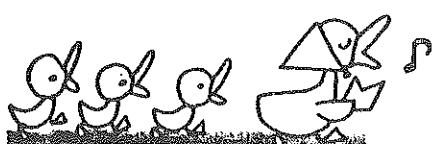
カンパをよろしくお願いします！

移動検診も3回目を迎え、まだまだ色々な課題があるものの順調に進んでいます。この検診は、全て皆さん一人ひとりからのカンパで行われています。今回の、

またこれから検診が充実していくためにもなおいっそうの皆さんの支えが必要です。ご協力をお願いします。

カンパは同封の郵便振替用紙をご使用ください。郵便局が遠いなど、銀行振込の方が良い方は、事務局まで問い合わせください。

前回募集した「小さなお土産を」の呼びかけに協力・問い合わせ、どうもありがとうございました。事務所には、可愛いお土産や、折り鶴、絵はがきが寄せられています。もう少し持つていけますので引き続きご協力ください。今回は、学校検診でかなりの人数の子どもが受診することになりそうです。折り鶴（糸でつなげて千羽鶴にしないように）を少しずつでも折つて事務所の方に送つていただけたらと思います。風景やきれいなイラストの絵はがきも喜ばれます。（重量オーバーで持つていけなくなった分は、次回の検診に回すこともありますので、あらかじめ御了承ください）



新しいサナトリウムの支援が始まります

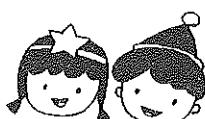
一昨年10月に皆さまに親しまれていたスタイキの“サナトリウム・九州”が、閉鎖されて以来（オリンピック選手用スポーツリハビリ施設を改装して使用していたのですが、国の方針によりそこが外国人専用ホテルに改築することになったためです。）、新たな形のサナトリウム建設のための土地や条件などの調査を重ねていました。昨年度の総会にて決まった

- ・移動検診システムと結びついたもの
- ・手術後の子どもたちのリハビリ等、健康回復に重点を置いたもの

…という観点より検討した結果、ミンスク市郊外にある放射線医学センター内分泌臨床研究所付属アキサコフシナ病院の健康回復病棟（サナトリウム）の支援を行うことが2月の総会で決定されました。

放射線医学センター内分泌研究所は、移動検診システムの中では、検診で異常が見つかった子どもたちが治療を受けることになる基幹病院の役割をしています。しかし、子どもたちが手術後に入る回復病棟は設備が整っていなく、医薬品も不足しています。

昨年来日し、九州・山口各県を回って現地の状況報告と移動検診システムのアピールを行ったラリサ・ダニーロバさんは、この病院の教授です。



放射線医学センター内分泌臨床研究所

付属アキサコフシナ病院について

- ・アキサコフシナ病院は、10年前にミンスク市郊外の“アキサコフシナ”にあった政府高官専用のサナトリウムを改装、甲状腺専門病院として設立され、小児科・内科・内分泌科など7つの部門があります。
- ・ベッド数は前科で366床。病室は2,3人、あるいは4人部屋になっています。1998年1月には新病棟が完成しました。
- ・病院では、全共和国の検査・治療を行いますが、大部分はチェルノブイリ原発事故による汚染地域、ゴメリ州・モギリヨフ州・ブレスト州からの人たちです。患者の多くは放射性ヨードまたは、ヨード不足による甲状腺疾患です。

当施設はベラルーシ共和国保健省・放射線医学調査研究所の臨床施設なのですが、超音波診断装置の老朽化、試薬の入手等の困難により、疾患の診断が困難になっています。また、コンピューターの不足のため、情報処理・分析が困難になっています。

支援の具体的な内容については今後も現地と詰めていきます。また、第3回検診団が入院している子どもたちの取材をし、どういう支援が有効かさらにくわしく調査してきます。次回通信でくわしい様子をお届けできる予定です。

* 放射線医学研究所内分泌研究所 所長からの手紙

ベラルーシ共和国保健省
放射線医学・内分泌臨床研究所

チェルノブイリ支援運動・九州 代表
深江 守 殿

「チェルノブイリ支援運動・九州」が、我々の問題に关心を抱いていただいていることに対し、また、支援に対し感謝いたします。

“アキサコフシナ”病院ーサナトリウムは、放射線医学・内分泌臨床研究所の病院施設であり、そこでは全共和国の患者に対して検査、治療、リハビリテーションが行われています。

1998年1月に、ベラルーシの小児・成人被災者のために、「病院ーサナトリウム」の新病棟が、開設されました。

“アキサコフシナ”における患者の検査、治療、リハビリテーションは、研究所の臨床検査部が行っています。(ラリサ・ダニーロバ医師が、内分泌検査を指導しています)

内分泌患者の外来時、あるいは、共和国の高度汚染地域からミンスク州へ避難させられた、または、チェルノブイリ原発事故により大量の放射能を被った小児・成人住民の出張検診時に、当研究所の超音波診断装置は使い古されているため、トラブルが生じています。

他の問題として、内分泌疾患、免疫障害診断のための試薬がコンスタントに供給されないため、甲状腺疾患、他の内分泌疾患の適時な診断・治療ができないことがあります。

ベラルーシのこの経済的困難な時期、我々の患者に対する検診、リハビリテーション改善の支援に対し、深江守さん、はじめ「チェルノブイリ支援運動・九州」の活動家の皆さんに、心から感謝の念を捧げるものです。

敬具

ベラルーシ共和国保健省
放射線医学・内分泌臨床研究所 所長
A. G. MROCHEK

切尔ノブイリ支援運動・九州 第8回総会報告

1998年2月8日（日）午後1時～北九州市小倉北区の小倉北中央公民館にて開かれ、前号の切尔ノブイリ通信に掲載した議案が承認されました。少し寂しい参加者数でしたが、武市先生の講演はわかりやすくて興味深く、初めて総会に出席した方々に大好評でした。

武市先生の話のあらすじと、会計報告を掲載します。

検診活動報告

武市 宣雄

ア. 本来「子ども」にはまれ（百万人に一人）なはずの甲状腺ガンが数年前ペラルーシで10万人に一人、地区によっては1万人に一人まであがっていた。

イ. 「支援」対象を「子ども」とすると、原発事故当時生まれた者も、あと数年で「子ども」ではなくしていく。今後「大人」が発病しあはじめるであろう諸々のガンが、支援の対象となっていくだろう。

ウ. 「ジュノーの会」がカバーしきれなかつた活動領域を補充するという意味でも、支援運動・九州との共同活動は有意義だった。特に血液学専門医との共同、及び移動検診車での広域な機動的な活動において。さらには、現地の

医師へ知識・技術を伝えていく点でも。次回は、ラリーサ医師も参加してもらいたい。

エ. 今後の方針として

- ①現地医療水準の向上を図る
- ②被曝とガンとの因果関係を疫学的に証明する調査記録の蓄積。

オ. 注意点、問題点として

- ①もしも日本の支援団体内部に意見の不一致が出たとしても、あちらには極力伝わらぬよう気をつける。
- ②メーカーから支援物資を供出してもう場合、使用できる部品や薬剤に限定が生じることに注意する。

*武市 宣雄先生

広島甲状腺クリニック院長、
第1回検診に参加



会計報告

* 前年度の総会で会計年度が10月締めから12月締め変更に決定しています。移行期になる97年度は、96年11月から、97年12月31日までとなっています。

1997年度(1996年11月～1997年12月、14ヶ月)
会計報告

収入	(円)
チャリティ 医療基金	3,457,000
移動検診基金	1,383,987
サトウハ運営基金	3,255,000
その他 カンパ	7,977,076
事務局運営費カンパ	3,000,000
利息	17,890
雑収入	121,649
本等売り上げ	1,339,880
前年度繰越金	11,369,493
収入合計	32,221,975

支出	(円)
事務局費	3,415,189
96総会費 (96.12.8)	61,068
臨時総会費 (97.2.23)	14,260
97調査団・派遣団・支援物資	18,437,396
スタディツアーエ医薬品	239,605
アリナ・ナリナ来日費用	806,063
その他	3,516,129
支出合計	26,489,710

収入(コ) - 支出(ツ) = 5,732,265円 テ
(来期へ繰越)

資料

1. サ・事務局費内訳

	(円)
駐車料	190,000
住居費	315,560
光熱費	56,520
電話代	267,746
通信費	1,000,115
印刷費	252,130
専従給与・交通費	955,600
事務文具	38,379
振替手数料	111,215
交通費	186,310
会場費	1,500
写真・絵画	39,751
計	3,415,189

2. チ・「その他」の主な内訳

	(円)
「雪だるま」印刷費	2,147,261
パソコン、関連品	255,951
「ペラルーシの旅」印刷費	525,000
カラーリーフレット	210,000
医学辞典(露語、英語)	77,360
OHP・シート	136,500
雪だるま号等シール	30,150
その他	133,604
計	3,516,129

1997年度 派遣費等 合計

	(円)
第7次調査団	905,878
アリナ・ナリナ来日費用	806,063
事前調査・車の買付	500,725
第1回移動検診	1,807,003
第2次移動検診	1,833,916
合計	5,853,586

1997年度 支援物資 合計

	(円)
車(ワーゲン新車)	2,889,315
第1回 医療検診派遣団	7,822,986
第2回 医療検診派遣団	2,677,573
スタディツアーエ医薬品	239,605
合計	13,629,479

$$C + D = 19,483,064 \text{円}$$

●第1回 移動検診団

1997年7月

支出

派遣費	(円)
移動費	1,175,090
宿泊費	11,225
海外旅行保険	39,480
車体ステッカー	18,900
荷物重量超過料金	133,500
現地滞在使用金	300,821
通訳謝礼	120,000
雜費	7,987
合 計	1,807,003

… A

支援物資	(円)
IMXアナライザ	420,000
超音波診断装置	2,310,000
血球計算機	1,890,000
顎微鏡	630,000
検査器具	708,998
検査試薬	979,985
医薬品	874,553
帰国後検査費用	9,450
合 計	7,822,986

… B

$$A + B = 9,629,989\text{円}$$

1ページ

●第2回 移動検診団

支出

派遣費	(円)
移動費	859,110
宿泊費	20,790
海外旅行保険	29,520
荷物重量超過料金	133,500
現地滞在使用金	614,000
通訳謝礼	150,000
雜費	26,996
合 計	1,833,916

… A

支援物資	(円)
顎微鏡	208,845
検査試薬	1,310,904
検査器具	329,985
医薬品	826,579
搬入手数料	1,260
合 計	2,677,573

… B

$$A + B = 4,511,489\text{円}$$

上記の通り勘定ございません。 (1997年1月31日)

会計監査 次回 年末

チエルノブイリ支援コーヒー 売上カンパ

グリーンコープ生協おおいた 356,100 円、「チエルノブイリは今」実行委員会 113,694 円、
きち工房 11,050 円、高知 士と生命を守る会 34,050 円、筑豊互助会 22,800 円、かご
しま有機生産組合 63,950 円、チエルノブイリ・支援鹿児島 19,350 円、グリーンコープ
八代 9,500 円、母と女教師の会(柏屋) 31,450 円、原発いらん下関の会 14,000 円、水
車村・白井円 16,000 円、ぼこあぼこ 15,750 円、八代女性市民・トマト館 6,000 円、鹿
児島有機ネット 6,000 円、グループもも 19,100 円、九州農政局 1,000 円、生協我孫子
センター 3,000 円、養生伝承館 3,000 円、グリーンコープ熊本共生社 524,000 円、チエ
ルノブイリ友の会 104,386 円、個人カンパ(41名分) 270,295 円 合計 1,644,475 円

チエルノブイリ支援運動・九州 10周年企画について

チエルノブイリ支援運動・九州は来年度に結成10周年を迎えます。事故から4年経つて事態の深刻さが明らかになり始めた1990年6月、チエルノブイリ支援運動・九州は誕生しました。あれから10年。月日の経過と共に人々の記憶から事故のことが消えていく一方で、現地ではまだまだ甲状腺ガンをはじめとする様々な疾病が増加しているのが現実です。チエルノブイリ支援運動・九州では、改めて事故のことを心に刻み、支援体制を一層強化していくために、一つの区切りとして10周年企画を行なうことになりました。そこで、どのようなことを行なうか会員の皆さんにもアイディアを出していただきたいと思います。

実現できるかどうかは運営委員会で検討します。ともかく「このようなことをしてみたい。ベラルーシからこんな人たちを呼んでみたい。」どんなことでも思いついたら事務局までお寄せ下さい。一人何点でも結構です。これから半年ぐらい時間をかけてじっくりと検討したいと思います。

例えばこんなこと…

- ☆ ベラルーシの「子どもアンサンブル」の公演を行なう。
- ☆ 大人のアンサンブル（歌…ベラルーシ民謡が中心）の公演を行なう。
- ☆ 夏休みに第2回スタディツアーワーを行

なう。

- ☆ チャリティーコンサートなどをメインにしたチエルノブイリの祭典を行なう。
- ☆ ストーリン地区の学校の子どもたちや教師、医者などを招待し、交流する。
- ☆ 甲状腺ガンの手術をした子どもや親たち、その支援組織などとの交流を行なう。
……等々

※ こうした企画は一つだけを行なうとか、4月とか5月とか限られた期間だけ行なうとか、そういう風には考えていません。いろんな企画を半年とか1年とかの単位で、それぞれの地域で何か企画している、そんな運動を作りたいと思っています。それぞれの地域にあわせたアイディアを出し合い、みんなで作っていけたらと思います。

また、最近は自治体レベルでN G Oに対する様々な援助を行なうようになりました。各地でこうした支援の有無についても調べてみてください。場合によってはかなり大掛かりな企画も実現できるようになるかも知れません。

寒りある10周年にしたいと思いま
す。どしどし、ご意見をお寄せください。

チエルノブイリ支援運動・九州事務局

〒 805-0050

北九州市八幡東区春の町 1-3-7-2

TEL/FAX 093 (681) 1780

グリーンコープ生協の皆さん ・ チャエルノブイリ支援運動・九州へようこそ

毎年、グリーンコープ生協は、組合員の皆さんにチラシを配布してチャエルノブイリ支援運動・九州への支援を呼びかけています。今年も新たに500人近くの組合員さんが支援申込みをしてくださいり、また、170人の組合員さんが支援の継続をしてくださいました。

申込用紙にたくさんのメッセージを書いて寄せてくださいました。その中からいくつか紹介をさせていただきます。



* 以前、テレビの番組でチャエルノブイリの子どもたちの様子を見ました。健康で生まれてくるはずの子どもが、事故によって病気に冒されて生まれてくるなんてやるせません。チャエルノブイリの子どもたちにも早く治療をしてもらいたいです。

(大分県 志手)

* 検診団の方、がんばってください。チャエルノブイリの子どもたち、決して希望を捨てないでください。

(熊本県 松永)

* 全ての子どもたちが健康に自信がもてるようになる日が来ますように。また、全ての母親が希望を持って子どもを産む日がやってきますように。

(熊本県 田頭)

* 昨年佐賀新聞社にてありました展示会に行き、チャエルノブイリで実際被害に

遭われた子どもさん達の絵や写真を見させてもらいました。被害にあったにもかかわらず、がんばっている方々、また充分な治療を受けられずに亡くなられた子どもさんや、両親が被害にあったために残された方のことを知り大変ショックを受けました。私にできることは、わずかなことですが、少しでもお役に立てればと募金させていただきます。望みを捨てないでがんばってください。遠い日本から、かけながら応援しています。

(佐賀県 江頭)

* このお金が現地の被害者の方々の痛みを和らげるための役割を果たすことを祈っています。 (福岡県 水本)

* チャエルノブイリの苦しみを通して私たちの未来の生き方を学んでいかねばならないと思っています。今かかえている痛みが少しでも和らぎ、不安と戦いながらも有意義な人生を子どもたちがたどつていけるよう、支援している人々がいるということが子どもたちに希望を与えることにつながればと祈っています。

(福岡県 森田)

* 10年以上もの時が過ぎたのに、まだまだ、いえこれからずっと放射能に汚染され続けることを知った時、とても驚きました。何もしてあげられない自分が少しでも役に立てればと思います。

(福岡県 林田)

* 充実した医療体制が一日も早く整い、子どもたちが安定した医療を受けられるように心よりお祈りいたします。

(福岡県 山本)

* 我が子達の元気な姿を隣に見ながら、そうでない子どもたちに何かできることはないかと思いました。ペラルーシの子どもたちによい医療が提供されるよう祈っています。現地で働く医師、検査技師をはじめ、医療に関わる全てのスタッフの方々、ご自身の健康にも気をつけられてがんばってください。来年もその先もずっと応援して行くつもりです。

(福岡県 樋口)

* 10年以上たってもなおかつ解決されていない被害の大きさに胸が痛みます。わずかですが、何かのお役に立ちたいと思います。私たちはこの尊い犠牲を大きな教訓にしていかなければいけないと思います。

(福岡県 西田)

* 子どもが産まれて命の大切さ、健康の大切さを実感しました。少しですが役に立てればと思います。

(福岡県 徳升)

* 今のところ平和な日本に住んでいると、世界のあちこちで悲惨な状況で暮らしている人々が実際にいるのだという事実に疎くなっている自分に気がつきます。チェルノブイリのような事故のために、夢も希望も無限大にある子どもたちが大きな犠牲を受けていることに関しては、事態を重く見て世界の人々が一緒に考えて協力すべき問題だと思っています。

(福岡県 久保)



皆さん、どうもありがとうございました。

◎ 今年度、グリーンコープを通して申込みをされていない方でも、カンパすることによって会員を継続することができます。今回も振込用紙を入れていますので、「申込みを忘れた…」という方はカンパをお願いできたらと思います。また、「カンパはできないけど通信は欲しい…」、「カンパはできないけどお手伝いをしたい…」という方も連絡をいただければ通信を送ります。



INFORMATION

NHKのB Sで今年の夏に地球法廷“核と人類 Part-2 原子力の未来を問う”が放送されます。今年は「原子力」をテーマに議論します。その議論の前提となる情報をインターネットのホームページ上で公開しています。チェルノブイリ原発事故のこと・原子力発電の現状・エネルギーの未来についてなど、今までNHKが取材したことやニュースで流れたことなどが、わかりやすく相当濃い内容で掲載されています。インターネットをやっている入たちは必見です！

URL <http://www.nhk.or.jp/forum/>

書籍案内



* 新たに会員となられた方に、ぜひ一読をお薦めします *

チェルノブイリ支援運動・九州が編集・発行した書籍です。新たに会員となられた方は、ぜひお読みください。既に会員を続けられている方で、まだお読みになつていない方も、この機会に読んで見ませんか。

また、周りの方々や地域の図書館、学校図書、PTA図書にもこれらの本をご推薦ください。在庫はまだたくさんあります。

売上はチェルノブイリの子どもたちへの支援費用に充てられます。

わたしたちの涙で雪だるまが溶けた～子どもたちのチェルノブイリ

定価 1300円

*被害を受けた子どもたちの作文集。大反響を読んだベストセラーです。

*日本語版の他に英語版(1500円)・ロシア語版(3000円)・ポルトガル語版(1500円)があります。

*1~4冊までは送料310円、それ以上は送料無料。10冊からは冊数によって割引がありますのでお問い合わせください。

ペラルーシの旅～森と出会いと歌声と

定価 500円

*チェルノブイリ原発事故10周年企画として1996年に行われたスタディツアーレポート集です。

*送料は240円です。

●注文は、同封の郵便振替用紙にて入金するか、または電話、FAX、葉書でお願いします。郵便振替用紙で注文された場合は、用紙が事務局に着くまで1~2週間かかりますので、早くお手元に欲しい方は電話等でご注文ください。

●本の内容についてはチェルノブイリ支援運動・九州のホームページでも紹介しています。注文は、メールでも受け付けています。

ホームページ <http://www01.u-page.so-net.or.jp/fb3/h-k-m-k/>
Eメール h-k-m-k@fb3.so-net.or.jp

事務局より

- * 每号振込用紙を入れています。これは、事務作業の手間を省くためと、思い立った時にいつでも振り込めるように毎回入れて欲しいという要望があったからです。すでに振り込まれた方には申し訳ありませんが、各自で処分されてください。また、振込用紙で書籍の注文もできるようになっています。「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」「ペラルーシの旅」など、まだお読みでない方はどうぞご注文ください。
- * 募金等の領収書につきましては、必要な方のみ発行させていただくことになります。振替用紙の中の要・不要の所に○印をつけてください。
領収書は特に希望がなければ次に送る通信に同封しますので、お急ぎの場合は御一筆ください。
- * 振込用紙が届き、事務処理をするまで1~2週間かかります。書籍や領収書などお急ぎの方は電話またはファックスでご一報ください。
- * 2月から郵便番号が7桁になりました。振込用紙には7桁のものをご記入ください。ご協力をお願いします。

わからないことがありましたら、事務局まで連絡をお願いします。不在時は留守電にメッセージを入れたら事務局員のポケベルに転送されるようになっています。折り返しこちらからお電話をしますので、必ず電話番号もメッセージに入れてください。

有機無農薬コーヒーのご案内

マイルド（有機栽培の特徴）で飲みやすいコーヒーです。また、1パックにつき50円が Chernobyl 支援運動・九州を通じて Chernobyl 原発事故の被害に苦しむ子どもたちへの医療援助資金となります。

● コーヒー価格 (アルミパックで200g入り、送料込み) ●

有機無農薬ジャカランダ	(5個以上)	1個当たり	775円
スペシャルジャカランダ	(5個以上)	1個当たり	970円

・税抜き価格です。注文個数に応じて割り引きがあり。有機無農薬紅茶もあります。

* 販売に協力してくださる方（個人・団体）、店頭に置いてくださるお店などを募集中。

ご注文・問い合わせ

〒807-0052 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16 (株) ウィンドファーム
フリーダイヤル 0120-803-678 / FAX 093-201-8398

